

専務取締役  
橋本 翔太

## 『暮らしにぬくもり、未来にともし火』を紡ぎ続けます！

カーボンニュートラルの実現を目指し、『安心・安全・快適なエネルギー』を地産地消できる活動をさらに推進していきます。これは地域の燃料屋としての次世代に対する使命であり、私の原動力です。バイオディーゼル事業は始まったばかりですが、3年以内に生産能力を倍増し、事業を安定させ、雇用を創出し、楽しい未来を創造する企業にします。

さらにエネルギーコーディネーターとして、ご家庭のエネルギーをトータルコーディネートし、各家庭のエネルギーのことは「橋本燃料に任せるわ〜」と言っていただけるよう取り組んで参ります。

そのためには、廃食油リサイクル『わくわく油田プロジェクト』を促進し、『暮らしにぬくもり、未来にともし火』を紡ぐ協力の輪を滋賀県民の生活に広げていく必要があります。

最後に私の小さな夢をお話します。滋賀県では、小学5年生になると学習船「うみのこ」に乗船し、びわ湖のことを体験を通じて学びます。現在、小学3年生の娘が5年生になるまでに、滋賀県内で精製したバイオディーゼルの「うみのこ」で使っていただけることを夢見ています。



### 有限会社橋本燃料

専務取締役／橋本 翔太  
従業員数／3人  
資本金／300万円  
事業内容／燃料小売業  
廃食油リサイクル事業  
住所／滋賀県高島市今津町230  
連絡先／TEL.0740-22-2140  
FAX.0740-22-2192  
代表E-mail／info@hashimototenryo.com

<https://hashimototenryo.com>



## Point

ものづくり補助金活用  
ここがポイント！



補助事業を実施するにあたり、「エステル純度99.9%」にこだわりました。一世代前の精製機は純度が低いため、排ガス規制が始まる平成18年以前の車両にしか使うことができませんでした。補助事業を活用して、バイオディーゼルの精製装置を導入したことで、目標を上回ることで、「品質の飛躍的な上昇」「販売領域が広がる」「自信を持って販売できる」と良いことづくしとなりました。一方、精製過程で出るグリセリン廃液の活用が課題でした。これを洗剤にアップサイクルして『業務用アルカリ洗剤バイオワッシュ(BIWASH)』を商品化し、令和4年10月に販売しました。滋賀県にこの取り組みが認められ「しがCO2ネットゼロみらい賞(製品・サービス部門)」を受賞することができました。

## Future

今後の展望

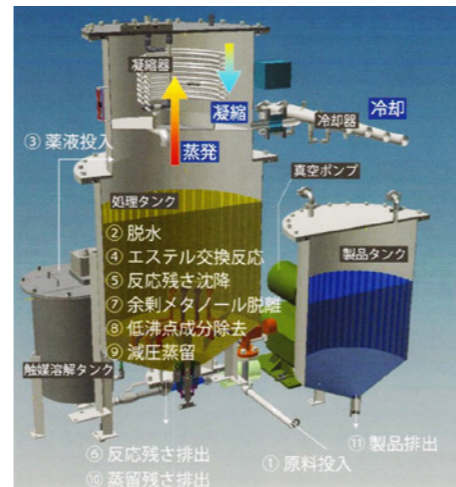


滋賀県は母なる湖、びわ湖を守るというポテンシャルが高い地域です。橋本燃料では、廃食用油を『オイルサイクルプロジェクト』としてリサイクルを推進してきましたが、この取り組みを全国的に幅広く推進するため(二社)リーゼル協会主導の『わくわく油田プロジェクト』に参画しています。ご家庭の使用済み天ぷら油を『わくわく油田スポット』を通じて回収する取り組みを推進して参ります。また、2023年12月には、油藤商事(株)の青山社長を中心として、滋賀県内でバイオディーゼルの製造する4事業者が集まり、滋賀県内でのバイオディーゼルの普及や循環型社会の構築を目指す「しがバイオディーゼル燃料推進協議会」を設立しました。さらに活動を加速して地域貢献の輪を広めます。

## ▶ 有限会社橋本燃料

令和元年度補正  
事業類型／一般型(通常枠)

# 純度99.9% 高純度バイオディーゼル燃料の製造装置導入による事業拡大計画



高純度なバイオディーゼル燃料を製造する装置

燃料屋さんが地産地消の循環型社会に挑戦！  
目指すは地域のエネルギーコーディネーター

当社は1953年に創業し、薪や加工炭の販売からスタートしました。1958年にはLPガス販売を開始。1991年に有限会社橋本燃料を設立しました。創業以来、高島市でエネルギーの供給を通じて、お客様の生活に寄り添い、ぬくもりをお届けしています。

2011年の東日本大震災により、当たり前の暮らしが一変しました。震災当時は大学2年生で、実家が燃料屋であったことから日本のエネルギー政策に関心を抱くようになりました。大学卒業後、社会経験を積むため大阪の会社に就職。2014年の結婚を機に家業を手伝うことを決意しました。

当時の燃料業界は人口減少とオール電化の普及により売上が減少していました。何かしなければと多くの勉強をしましたが、行動に移せぬまま焦りが募っていた2018年、油藤商事(株)の青山社長の廃食油を活用したバイオディーゼル事業の講演に参加し、環境への考え方、循環型社会への想いに共感。この出会いが私の人生の分岐点となりました。

2019年に中古のバイオディーゼル精製機を購入し、取引先や顔見知りの飲食店から廃食油を調達して経験とノウハウを積み上げました。しかし、一世代古い中古機で精製したバイオディーゼルの「純度が低い」「古いトラックしか動かせない」などの課題がありました。

2021年には、高島市から廃食油の回収とバイオディーゼル精製事業を受託することができました。この大きなチャンスが、補助事業で導入した高純度バイオディーゼル精製装置(減圧蒸留装置)を使ったバイオディーゼル事業に本気で取り組むきっかけとなりました。